

出前講座一覧表(主催:土木学会中部支部、共催:地盤工学会中部支部)

2026年7月更新

講演対象:制限なし

テーマ	題 目	概 要	対 象 (参考*)	その他(講演・準備時間、使用機器**)	講師名	所 属
防災	津波と高潮	高潮とはなんだろう、津波とはなんだろう、高潮と津波はどう違うのか、それらにどう備えれば良いのだろうか、どんな気候変動の影響があるかという疑問に答えるために1)高潮、津波とは何か、2)これからの高潮、津波への備えについて、これまでの災害経験も踏まえて紹介する。	制限なし	講演:ご相談に応じます 準備:1週間 機器:パワーポイント	富田 孝史	名古屋大学 減災連携研究センター 教授
	災害情報の見方(特に地盤災害に関する降雨情報について) (共催:地盤工学会中部支部)	雨の降り方と土砂災害の関係について解説。特に、土砂災害警戒情報発表の仕組みと意味について講義を行うと共に、事前避難の重要性を説明する。	制限なし	講演:1～1.5時間 機器:パワーポイント	長谷川 謙二	㈱フジヤマ 名古屋支店 事業部 特任部長
地盤防災	複雑化する地盤災害を理解し備える ー常識の中に潜む非常識ー	なんとなく分かった気になっている地盤災害では「こんなこと」が起きているのか?という非常識を掘り出します。①地震時の液状化はなぜ怖いのか?②津波被害は足元からもやってくる?③豪雨と普通の雨はどう違うのか?(河川堤防を例に)?④「土砂災害にご注意ください」と言われたとき何が起きているのか?⑤都市の地下に忍び寄る陥没とは?などを動画もまじえて分かりやすく「ナゼ」を理解していきます。一般から技術者、管理者などの立場で、どのように備えていくのかを「聴衆の立場」に合わせて考えていきます。いろんなトピックスを織り交ぜることもできますし、一つに絞って深掘りすることもできます。	制限なし	講演:ご相談に応じます 準備:1週間 機器:パワーポイント	前田健一	名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授
環境	気候の歴史をさぐる	豪雨の頻発、大型化する台風、氷河の急速な後退など、昨今取り沙汰されている気候変化はどのくらい「異常」なのか。それは長い気候史の中でどのように位置づけられるのか。人類が過去に経験した気候変動の歴史を、古気候を採る様々な分析手法を紹介しつつ概観する。	制限なし	講演:制限なし 準備:常時対応可能 機器:パワーポイント	庄 建治朗	名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授
土木一般	進化しつづける建設材料	建設の分野で利用されている材料の変遷、利用が期待されている“新材料”を紹介する。	制限なし	講演:1～1.5時間 機器:パワーポイント	国枝 稔	岐阜大学 工学部社会基盤工学科 教授
材料	自然科学に学ぶ建設材料の開発	自然界には曲がる石があることを知っていますか。コンニャクのような石の微視構造にヒントを得た免震材料の開発を紹介します。また、地殻の構成岩石の形成メカニズムにヒントを得て劣化したコンクリートを固くする技術などを紹介します。	制限なし	講演:制限なし 準備:常時対応可能 機器:パワーポイント	吉田 亮	名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授
水・河川	都市における下水道の役割	なごやの下水道は、大正元年に供用を開始して以来 110年以上、今日までみなさまの安心・安全な生活や活発な都市活動の基盤として、重要な役割をはたしてきました。下水道の役割である公共用水域の水質保全や浸水の防除、資源の有効利用等の取り組みについて紹介します。	制限なし	講演:約1時間 準備:約3週間 機器:パワーポイント	池之上 貞治	名古屋市上下水道局 技術本部 計画部下水道計画課 課長
	大規模水害とその対策 ー東海豪雨からの教訓	近年、大規模な水害が頻繁に起こっています。2000年の東海豪雨から20年がたちますが、現在起こっている水害と同じようなことがすでに起こっていました。そこからの教訓を今一度呼び起こし、今後の水害に対する備えについて考えます。	制限なし	講演:1～1.5時間 機器:パワーポイント	富永 晃宏	名古屋工業大学 大学院工学研究科 名誉教授
構造物	コンクリート構造物の維持管理	コンクリート構造物に生じる様々な劣化現象の原因とその対策について説明します。	制限なし	講演:60分程度 準備:1～2週間 機器:パワーポイント	中村 光	名古屋大学 大学院工学研究科 土木工学専攻 教授

*講座対象は参考です。書かれている対象以外の場合でも講師と相談の上、対応を検討させていただきます。

**使用機器については講師とご相談ください。